



サンライズファーム株式会社

業務内容 漁業・食品加工業 創業 2021年

従業員数 社員32人(パート他18人)計50人 所在地 宿毛市新港77-7

QRコード®とネットワークでつなぐ！ ぶり加工、出荷・販売までの一貫通貫DX

豊かな海が広がる宿毛市と大月町を拠点に、ぶり・まぐろの養殖・加工・販売を行う「サンライズファーム株式会社」。QRコード®等を活用した出荷情報の管理体制を新たに構築することで、これまでのアナログな体制では難しかった生産から販売までの一貫体制を実現。安心・安全・新鮮な高知の魚を全国に届けています。



デジタル化担当
楠永さん

Q 御社のデジタル化の取組内容について教えてください。



養殖ぶりの加工工程において、計量器やラベラーなどの機器をネットワーク連携し、原魚から加工品、出荷までの情報をQRコード®で一元管理しています。これにより、情報の整合性が保たれ、手入力のミスや記録漏れが大きく減少。また、現場の作業手順も標準化され、業務の属人化が軽減されました。製品ごとの重量・出荷先・日付などを正確に記録でき、HACCPやMEL認証にも対応した安全・安心な出荷体制を実現しています。

Q 抱えていた課題と、デジタル化に取り組みだきっかけを教えてください。

2023年に自社加工場を新設したのを機に、養殖から加工まで一貫して手がける強みを活かし、安全で新鮮な高知の魚を全国に届けたいという思いが強まりました。しかし、従来の水産加工現場では、原魚や加工品の重量、生簀ごとの尾数などの記録をアナログ管理に頼る部分が多く、トレーサビリティや記録精度の面に課題がありました。そこで、加工から出荷までの情報をすべてデジタルで記録・共有できる体制の構築を目指した取組を実施しました。



Q デジタル化に成功した秘訣を教えてください。

加工現場でのデジタル化にあたっては、複数のハード機器と、重量記録・出荷先管理など複数のソフトウェアとの連携が必要でした。特に、計量器メーカーと顧客・出荷管理システムのベンダーが異なっていたことから、システム間のデータ連携の仕様調整には労力を要しました。人員も限られていましたが、できるだけ現場の負担を抑えられるよう、関係各社と調整をし、デジタル化を段階的に進められたことがスムーズな運用定着に繋がったと感じています。



デジタル化導入までの期間とプロセス

- 自社加工場を新設する計画段階から約1年でデジタル化の計画を策定、1年をかけて実装
- 養殖場のマネジメントをしている社員を中心に(ボトムアップ)に、現場の課題を吸い上げながら、水揚げ、加工、出荷のフローごとの体制を構築

導入にあたっての人材確保 (ITベンダー含む)

- 計量器のメーカー、顧客・出荷管理システムのITベンダーを含め3社と連携

導入したITツール

- 豪商 ● 二次元コード(QRコード®)の発行システム
- Microsoft Teams

支援機関、補助金等の活用の有無

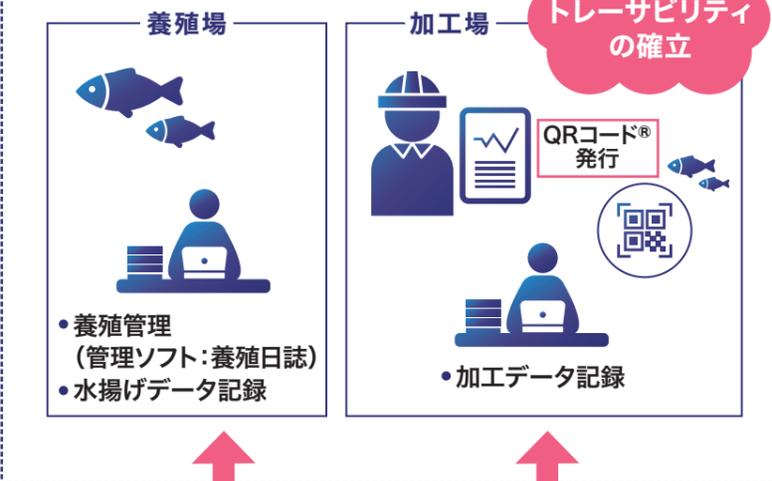
- 高知県輸出拡大施設整備等事業費補助金

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

情報は令和8年2月時点のものです

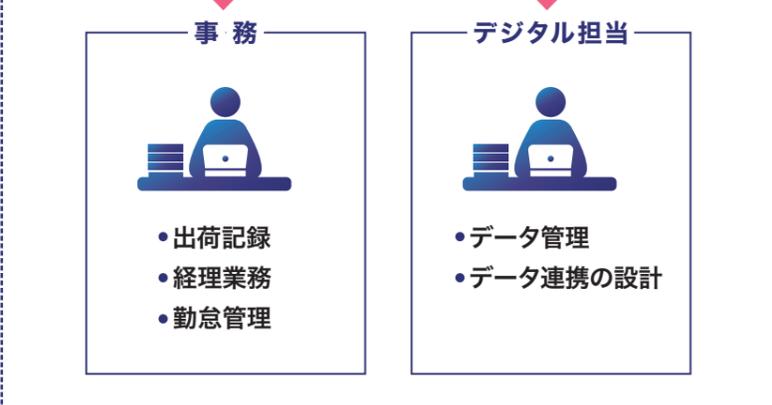
デジタル化の取組イメージ

現場



原料～加工～出荷までをつなぐデータ連携

事務所



QRコード®を用いた記録・出荷管理

トレーサビリティと業務効率化を両立

出荷記録と経理処理を一元管理

現場でのミス・トラブルが減少

販路の拡大、営業利益向上

「記録を残す」意識と習慣が定着

デジタル人材育成

取組みの成果

養殖・加工・販売までの一元管理による 正確な記録と業務効率化の両立

受賞にあたって

現場の課題を一つずつ整理しながら、限られた人員で取り組んできた努力が評価されたことを大変うれしく思います。今後も、高知の豊かな海の恵みをデジタルの力で全国・世界へ届ける「スマート水産業」を推進してまいります。

これからデジタル化に取り組みたい事業者様へ

「大量の農林水産物を取り扱いながら、安心・安全を確保する」ことは、一次産業が長年抱えてきた課題であると思います。地方都市では、少子高齢化による人手不足が影響し、従来のアナログな体制にも限界が見えてきています。デジタル技術を従来の業務に活用し、新たな体制の構築を検討することが求められていると感じます。



デジタル化担当
楠永さん